

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・4 vol.427

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉

救援物資、震災募金への御礼

この度の東日本大地震・大津波大災害に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



ドクターヘリ基地 ヘリポート落成セレモニーテープカット 〈写真撮影：3月30日(金) 関連記事P4〉
写真左から：及川看護部長、小林医学部長、祖父江副学長、岩手県知事（代理：根子岩手県保健福祉副部長）、小川理事長、鈴木前医学部長、遠藤高度救命救急センター長

おもな内容

- 巻頭言 歯学部の新生を目指して—歯学部改革プロジェクトについて— 歯学部長 三浦 廣行
完成年度を迎えた薬学部 薬学部長 二井 将光
- ドクターヘリ基地 ヘリポートが落成しました
- トピックス 臨床研修修了証授与式が行われました
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.36 アレルギー性鼻炎 —増加している有病率—
耳鼻咽喉科学講座 助教 嶋本 記里人

歯学部的新生を目指して —歯学部改革プロジェクトについて—

歯学部長 三浦 廣 行



大 学報404号（2010年5月発行）に、「魅力溢れるコンパクトシティを目指して」と題して、以下の拙文を寄稿いたしました。

（前略）システムを変えるだけでは意味がない。我々の意識を変えなければならない。（中略）常に向上心を持ち、バイタリティのある魅力ある教員であれば、学生さんに与える影響は計り知れないものがある。学習の主体は学生さんであり、その学生さんをサポートするのが教員であるから、一人ひとりの学生さんがよく見える、そして一人ひとりの教員もよく見える組織のコンパクト化が、一人ひとりの学生さんに木目細やかな対応ができることにつながるものと考えている。

本 学の教職員や学生さんには底知れぬ潜在力がある。この潜在力を活性化するあらゆる手段を講じて行く覚悟である。

さ て、現在歯学部では、小川学長の陣頭指揮により、理事会直属の歯学部改革プロジェクト実行委員会が組織され、永井成美（米国ハーバード大学准教授）学長顧問の協力のもと、改革プロジェクトが進行しています。このプロジェクトはハーバード大学と正式な覚書を締結（平成23年12月15日）し、ハーバード大学の教育システムの概念と形式を導入し、本学歯学部独自の新しい教育システムを構築することによって、教育、臨床、研究における将来のリーダーを育成することを目指しています。

プ ロジェクトの具体的な目的と目的達成のために掲げた戦略は以下のとおりです。

プロジェクトの目的	目的達成のための5つの戦略
1. 国家試験の合格率を上げること	1. 歯学教育部門（ODE）の設立
2. 入学志願者を増やし、入学者の競争率を上げること、また卒業率を上げること	2. 講座再編および新しいプロモーション制度の設立
3. 学生の満足度を上げること	3. 新しいカリキュラムの編成
4. 教員の満足度を上げること	4. トータルケア外来（CCC）の設立
5. 卒業生の満足度（プライド）を上げること	5. 歯科医療センターの再編と最新歯科医療の導入

本 プロジェクトでは、教育改革のひとつとして、Society 制度と Senior Tutor 制度を設立しました。

この制度を活用することで、学生と教員および学生同士の意志疎通を円滑にし、学習への取り組みや卒後の進路など、学生生活の様々な問題をタイムリーに解決してゆくことが可能となりました。

こ の制度では、1～6年の各学年10名程度をグループとして Society を形成し、各 Society には2名の担当教員（Tutor）を配置しています。

Society 制度と Senior Tutor 制度の教育効果

1. 総合的な学生教育
2. 学生が親しみやすい学習環境の構築
3. これまでのクラス単位での学生の交流に加えて、学年縦割りの交流による学生同士が支え合える環境作り
4. Real time で学生を分析・指導・評価が可能
5. Real time で教育システムと教員の問題点を把握し、フィードバックできること

こ の制度の採用によって、学生間では、屋根瓦方式の教育システムとして「教学半」が実践でき、また教員との間では「啐啄同時」を実践しやすくする場をつくることとなります。これを実現するために、歯学部5階の基礎講座移転後の研究室等を、6年の学習室、5年の学習室、1～4年の学習室を兼ねたミーティングルーム、Tutor の個室として活用しています。

一 方、カリキュラムに関しては、診療参加型の臨床実習を充実するために、大幅な変更を行いました。このカリキュラムの変更に合わせて、より診療参加型臨床実習を実施しやすい環境とするために、歯科医療センター外来の再編を行いました。

研 究に関しては、紙面の都合上割愛しますが、大学の活力の源として重要なものとしてプロジェクトの中で位置づけております。以上、歯学部改革プロジェクトの一部を紹介してきました。

本 プロジェクトは歯学部の教職員と学生が丸となって取り組んでいるものです。とくに若い教員の改革に取り組む熱意と企画力・実行力、そして経験豊富な教員のサポートには頭が下がります。この熱い想いをバネに今後歯学部は創立50周年に向けてホップ・ステップ・ジャンプと飛躍できるものと確信しています。今後とも学内の皆様のご支援をお願いいたします。

完成年度を迎えた薬学部



薬学部長 二井 将 光

薬 学部では、一年後に一期生が卒業します。8年ほど前に小川医学部長（現理事長・学長）と大堀勉理事長（現名誉理事長）の御英断によって薬学部開設準備室が作られ、設置準備室長をお引受けしました。人事を決め、カリキュラムを作り上げ、建物の完成とともに平成19年に薬学部の開講となりました。初代の薬学部長をさせていただいている私としては、成長した学生を見るとまさに感慨深いものがあります。6年間の教育体制の完成に至る道は、縁あって赴任していただいた薬学部の全教員諸氏の努力によるものです。

言 うまでもありませんが、大学の中心的な活動は、教育と研究です。ゆとり教育の犠牲者である学生の為に導入教育が必要となってきました。薬学部では初歩の化学や数学の復習から始め、専門教育に入るという体制が、やっとできたのではないかと思っています。専門教育では「教えてもらう」態度から、「学ぶ」姿勢と「努力する」才能を身につけてもらうことに力を注いでいます。

6 年制導入によって、地域の保険薬局や病院の協力を得て実務実習が始まっています。先輩の薬剤師さんが次の世代を育てる、という理想に向かっています。薬剤師さんは、学生から急に先生と呼ばれ戸惑っているかもしれません。この「先生」という言葉には、「指導していただきたい」という強い願いが込められています。彼らの願いに答えて、可愛い後輩の実習を指導してほしいと思いま

す。ゆとり教育の弊害が残っていたり、礼儀に欠けることがあったら息子や娘と思って教えて下さい。学生に応じてやさしく余裕を持って指導する、これが基本です。

大 学のもう一つの活動は、研究です。日本の私立医大の歴史にはATPの構造決定、薬剤耐性因子の研究、筋肉の収縮機構の解明など、国際的に高く評価される業績が残っています。また、岩手にはたくさんの植物の新種の発見、ビタミンの発見、イネの生育因子の同定など、数多くの先人の研究が残されています。さらに、岩手医大には十分な研究費と設備があり、国際的な成果を上げられる環境があります。

最 近の優れた論文を見ると、生化学から細胞生物学、生物物理学など広い分野の協力によるものが多くなっています。まさに、医歯薬の共同研究が求められています。改めて振り返ると、他の研究室と質の良い共同研究をする度に、私の研究は大きく進展しました。また、研究室の主宰者として、何人もの優秀なポスドクやスタッフと共同で仕事をしてきました。重要なのは、優れた研究者に来てもらえるように努力することでしょう。

「教 育が忙しいから研究はできません」こんな情けない言い訳をされる教員はいないと思います。猛勉強をして新しいことを学んでいる学生に答えて指導をする、そして、新しさを求めて研究をする姿を見せる、この二つが教員の義務でしょう。

ドクターヘリ基地 ヘリポートが落成しました

本学は岩手県よりドクターヘリ導入促進事業の委託を受け、かねてより事業を進めてまいりましたが、3月30日(金)に「岩手医科大学附属病院ドクターヘリ基地ヘリポート」が落成の運びとなりました。

同日午前9時30分からは、建設地内(矢巾キャンパス附属病院移転用地)において落成セレモニーが行われ、大学関係者や来賓など約70名が出席し施設の落成を祝いました。

セレモニーでは、関係者によるテープカットが行われ、岩手県知事(代読：根子岩手県保健福祉副部長)からのご挨拶に続き、小川理事長から「短時間の広域搬送を可能とするドクターヘリの導入は、慢性的な医師不足と医療過疎が進む本県においては、まさに救急医療の福音となるものであり、救命率の向上に大きく寄与するものと期待されます。」とご挨拶がありました。また、本事業に対して多大なるご厚志のお申し出をいただいたJA 共済連岩手様と野村證券株式会社様から小川理事長へ目録が手渡されました。

その後は、大勢の報道関係者が詰めかける中、施設及びドクターヘリ機体の内覧会と記者会見が行われ、参加者は本事業に対する理解を深めている様子でした。



挨拶を述べる小川理事長



施設、機体内覧会の様子

完成した施設は、鮮やかなカラーリングが印象的であり、矢巾キャンパス校舎と同様に最新鋭の設備を備えています。以下に施設概要をご紹介します。

施設概要

建設地 紫波郡矢巾町大字藤沢地内
敷地面積 186,394.35㎡

建築面積 426.40㎡
延床面積 422.87㎡
構造 鉄骨造 地上1階
主要用途 ドクターヘリ格納庫、ヘリポート他



建物内部



ヘリ格納庫

ヘリ基地の建物内には、ヘリ格納庫や事務室、スタッフ待機室等が設けられおり、医師・看護師・機長・整備士・運航管理者の計5名が待機します。



事務室

ヘリポート周辺

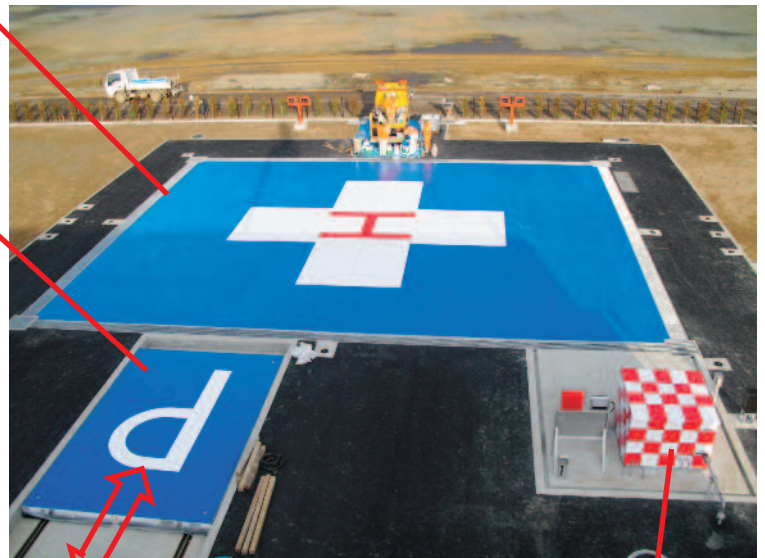
ヘリポートは、融雪設備や日没後の夜間照明設備、スライディングヘリパットなど最新鋭の周辺設備を備えています。

スライディングヘリパット（ヘリ機体を載せて、ヘリポート・格納庫間を移動）



夜間照明点灯時

ヘリポート



格納庫側へ

燃料給油設備

ドクターヘリ機体



機体写真（ユーロヘリコプター社製 EC-135）

昨年の大災害に際しても、全国から飛来したドクターヘリは、患者さんや孤立した被災者、医療支援チームの搬送活動に大きく貢献しました。

4月からは、実際の運航を想定した訓練が行われており、5月8日から運航を開始する予定となっています。

機体情報

- | | |
|-----------------|---------------|
| ○全長：12.16m | ○搭載医療機器： |
| ○前幅：10.20m | 人工呼吸器、吸引器、 |
| ○最大全備重量：2,830kg | 患者監視モニター、 |
| ○最大巡航速度：時速254km | 携帯型超音波診断装置、 |
| ○航続距離：630km | 輸液ポンプ、救急医療器材、 |
| ○搭乗定員：6名 | 医薬品、バックボード等 |

救命救急用スタンドフリー自動輸液装置の開発記者会見が行われました

本学と(株)アイカムス・ラボは、3月8日(木)に共同記者会見を開き、救命救急用スタンドフリー自動輸液装置を開発したと発表しました。この装置は、薬液などの吊下げスタンドを不要とする省スペース型となっており、医療スペースが限られる大規模災害等の医療現場での活躍が期待されています。会見では試作機のデモンストレーションが行われ、報道関係者から大きな関心が寄せられていました。

開発プロジェクトは、本学、(株)アイカムス・ラボ、(有)イグノス、いわて産業振興センターにより実施され、高度救命救急センター秋富慎司助教がプロジェクトサブリーダーを務め、本学リエゾンセンターがプロジェクトのコーディネートを行いました。また、装置の特許出願を行っており、今後平成27年の実用化に向けた設計作業が行われる予定です。



記者の質問に答える秋富助教

医学部白衣授与式が行われました



病院長から白衣を授与される学生

新年度から附属病院で臨床実習が始まる医学部の新5年生を対象にした「白衣授与式」が、3月16日(金)午後3時から創立60周年記念館9階第2番講義室で行われました。

授与式では、医学部長、病院長、臨床実習部会長及び医学部クラス担任出席の下で、学生95名に白衣が授与され、学生代表として安彦友博さんが「安全かつ良質な医療の実践・地域医療への貢献を目指して勉学に励み、誠の医療を実践することを誓います」と宣誓しました。

これから臨床の場に第一歩を踏み出す学生に、大きな期待が寄せられます。

臨床研修修了証授与式が行われました

附属病院での臨床研修を終えた臨床研修医の修了証授与式は、3月24日(土)午前9時から木の花会館3階会議室で行われ、初期臨床研修医6名に修了証が授与されました。

修了証の授与後には優秀臨床研修医の表彰も行われ、病院長から賞状と副賞が手渡されました。

臨床研修歯科医の修了証授与式は、3月30日(金)午後1時30分から創立60周年記念館8階研修室で行われ、臨床研修歯科医49名に歯科医療センター長から修了証が授与され、来賓から祝辞が寄せられました。



臨床研修医の修了証授与式



臨床研修歯科医の修了証授与式

表彰の栄誉

岩手県遠野市から感謝楯が贈呈されました

東日本大地震・大津波大災害発生直後から遠野市に拠点を置いて実施した被災地避難所への巡回診療活動について、3月18日(日)、その功績が称えられ岩手県遠野市から本法人へ感謝楯が贈呈されました。

感謝楯は、同日遠野市で開催された「東日本大震災・後方支援の集い ～縁が結ぶ復興への絆～」において、本法人を代表して小川理事長に手渡されました。

本法人は、発災直後から国や関係機関へ様々な提言を行いつつ、全国からのご支援を受けながら県内に適切な医療を提供してまいりました。被災県の中でも、岩手県の統制のとれた適切な医療体制は、全国から高く評価されています。



二井 将光 薬学部長が日本学士院賞の受賞者に選出されました



本学薬学部長の薬学部機能生化学講座 二井将光教授は、3月12日(月)に開催された日本学士院の総会において、平成24年度日本学士院賞の受賞者に選出されました。

この賞は、学術上特に優れた論文や研究業績に授与されるもので、国内で最も権威のある学術賞の一つに数えられており、過去の受賞者には日本人ノーベル賞受賞者が名を連ねています。また、本県関係者では二井薬学部長が実に20年ぶりの受賞者となり、テレビ・新聞のニュース等で大きく報道されました。

表彰式は、本年6月に行われる予定で、例年、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いで挙行されています。

理事会報告

■ 2月定例（2月27日開催）

- 理事の職務担当区分について
- 名誉理事長の称号授与について
大堀 勉（前学校法人岩手医科大学理事長）
（称号授与年月日 平成24年3月1日付）
- 名誉教授の称号授与について
猪又 義男（前医学部整形外科学講座教授）
（称号授与年月日 平成24年4月1日付）
- 大学附属病院長の選任について
酒井 明夫（医学部神経精神科学講座教授（新任））
（任期 平成24年4月1日から平成27年3月31日（3年間））
- 附属花巻温泉病院長の選任について
猪又 義男（再任）
（任期 平成24年4月1日から平成25年3月31日（1年間））
- 教育職員の人事について
医学部災害・地域精神医学講座 特命教授 大塚 耕太郎
（前 医学部神経精神科学講座 講師）
（発令年月日 平成24年3月1日付）
医学部衛生学公衆衛生学講座 准教授
小野田 敏（前講師）

- 医学部衛生学公衆衛生学講座 准教授
丹野 高三（前特任講師）
（発令年月日 平成24年4月1日付）
- 一般職員の人事について
 - 組織規程の一部改正について
(1) リハビリテーション部への士長及び副士長の配置に伴う第33条の改正
(2) 歯学部臨床系講座の再編（一部再修正）及び医学部学科新設に伴う別表2教育研究組織機構図の改正
・歯学部臨床系講座を再編（1月開催の理事会で承認された内容を一部修正）
・医学部に臨床遺伝学科を新設
(3) 事務局再編に伴う別表4事務局組織機構図の改正
①現状に即した組織体制の明確化、②平成30年の病院移転に向けた体制作り、③平成24年度から本格化する災害復興支援への対策、④今後さらに厳しさを増す社会情勢などに対して柔軟に対応できる組織とするため、事務局組織を改編
（施行年月日 平成24年4月1日）

岩手医科大学募金状況報告

● 岩手医科大学震災募金 ～ご協力の御礼とご報告～

学校法人岩手医科大学 理事長 小川 彰

昨年3月11日に発生しました東日本大地震・大津波大災害に際しましては、多くの皆様から多大なるご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

この度、3月末日をもって募金活動を終了させていただきましたので、ここにご報告申し上げます。

皆様のご厚情は、下記のとおり大切に活用させていただきました。誠にありがとうございました。改めて厚く御礼申し上げます。

今後とも本学の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

記

- | | |
|---|--|
| 1. 募集期間
平成23年4月1日～平成24年3月31日 | (2) 地域医療支援活動 241,610円
医療支援チーム、心のケアチーム、
感染対策チーム、検案医師等の派遣、
災害医学講座、地域・精神医学講座 等 |
| 2. 募金総額
27,833,140円 148件 ※預金利息3,991円 | (3) 本学教育施設の復旧 19,148,159円
内丸・矢巾キャンパス施設設備復旧、
附属花巻温泉病院施設設備復旧、
雫石グラウンド復旧 等 |
| 3. 配 分
(1) 被災学生への経済的支援 8,447,362円
学部学生・大学院生 75件
医療専門学校学生 11件 等 | |

● 総合移転整備事業募金 ～皆様のご厚志により支えられています～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は14回目の御芳名紹介です。(平成24年1月1日～平成24年2月29日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

<御芳名のみ記載>

医療法人 卓 (愛知県)
(受付順、敬称略)

個人等

<20,000,000円>

亀井正明 (医7)

<2,000,000円>

出口良彦 (ご父母)

<500,000円>

城戸正美 (医23)

<300,000円>

木村靖和 (医41)

<御芳名のみ記載>

黒田啓美 (医26)

吉住真 (医20)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭陵会	440	286,772,000
在学生父母	183	85,640,000
役員・名誉教授	38	67,810,000
教職員	107	15,545,000
在学生	1	100,000
一般	97	293,982,922
合計	866	749,849,922

(平成24年2月29日現在)



解剖学講座
(細胞生物学分野)

このラボの前身である第二解剖学講座は1958年1月に大倉先生により創設されました。それから主任教授は4人代わり、名称も「解剖学講座細胞生物学分野」と変わりましたが、研究のメインテーマは「細胞を観る」ということで一貫しております。

顕微鏡を使って細胞を観察するのは、人間の「覗きたがる」本能を刺激するもので、歴史的にも顕微鏡観察はヨーロッパの貴族階級で流行った趣味のひとつでした。とはいえ、顕微鏡システムを使いこなして、所見をとり、更に論文に仕上げるといふ科学者の行為は、苦勞が多いことも確かです。言い古された言葉ですが「美は真実、真実は美」なのですから、画像処理ソフトでメイキングしなくてもすっきりとしたスツピンの美しいデータを得るようにしなければいけません。そのためには、標本作製に手間暇かけて、更には隠し味の工夫をこらす必要があります。

さて、現在、ウチのラボに在籍しているメンバー

は、こんな仕事が好きな人間ばかりです。調和が取れた美しい画像を撮ることに寝食忘れるオタク集団と言っても良いでしょう。美しい物を観てみたいという方々は、是非ラボを訪れてください。ただし、顕微鏡を覗き込んで自分の世界に浸っている私たちに迂濶に声をかけると、不機嫌な対応になるかもしれません。その際は御寛恕下さりたく、予めお詫び申し上げます。

(教授 佐藤 洋一)



看護部
(中4階)

中4階は、先天性の疾患から加齢による老化現象が原因である疾患が対象であり、乳児から高齢者までの幅広い年齢層の患者さんが入院しています。主な治療として、手術、化学療法が行われて



います。「よく見る」「よく聴く」「感じる心を大切に」をモットーに、OT・PTやDr.と合同のリハビリミーティングを行い、患者さんが一日でも早く社会復帰、家庭復帰できるようにケアを行っています。毎日行われるリハビリは楽しいことばかりではありません。痛みを伴ったり苦しいこともあります。頑張っている患者さんの姿に勇気と元気をもらいながら私たち看護師も一緒に頑張っています。これからも患者さんの自立を目指し、広い心と患者さんの声を聞き逃さないためのアンテナを張りめぐらせ、個性のある看護を提供していきたいと考えています。

(主任看護師 三本松 史子)

— 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品(写真、俳句、絵画など)、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。(原稿字数 500字~1,000字程度)

また、特集してほしいテーマや、各コーナー(「表彰の榮譽」「トピックス」「教職員レター」など)への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

連絡先 大学報事務局(企画部企画調整課)
内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

定年を迎えられた教職員の皆様永い間お疲れ様でした

本年3月31日付で定年を迎えられ退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。



●敬称略

6列目左から

石関 清人 浅沼 一好 外村 道夫
清野 誠 関 隆 瀬川 清

5列目左から

赤羽 和久 吉崎 陽 新屋 久美子
金野 隆雄 佐々木 光政 高橋 昌子
北野 幸子 伊藤 和弘 柳田 美喜子

4列目左から

及川看護部長 伊藤 恵津子 山端 久美子
北村 乃枝子 河野 和子 山田 眞希
諏訪部 俊子 高見 和子 小田中 美奈子
田中 美津子

3列目左から

山田 その江 柿澤 明子 瀬川 美津子
細川 厚子 高藤 弘子 工藤 千秋
小森 なを子 阿部 正子 長澤 厚子

2列目左から

内藤 弘子 関根 眞理子 大森 まり子
笹木 和子 旭田 節子 多久佐里 文子
江刺家 修子 及川 朝子 新沼 京子
高橋事務局長

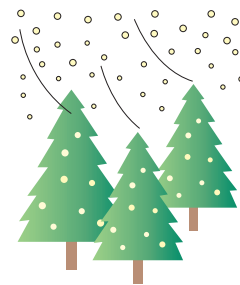
1列目左から

米満 正美 猪又 義男 二井薬学部長
鈴木前医学部長 小川理事長 祖父江副学長
三浦歯学部長 小林医学部長 佐々木 和彦

すこやか スポーツ医学講座 No. 36

耳鼻咽喉科学講座

助教 嶋本 記里人



アレルギー性鼻炎 — 増加している有病率 —

アレルギー性鼻炎はくしゃみ、鼻水、鼻づまりを主徴とするI型アレルギー性疾患で、季節性の花粉症を含めるとわが国では約2000万人の患者がいるとされています。アレルギー性症状を誘発する原因は、特異的直接要因（ダニ、ハウスダスト、花粉、真菌など）および非特異的間接要因（塵埃、化学物質、天候、感染、喫煙、ストレス、遺伝など）に分けられます。臨床問題となるのは、上記の3主徴の他に倦怠感、集中力の低下、睡眠障害などQOLの低下を招くことです。

花粉症の有病率はこの10年間に19.6%から29.8%に、スギ花粉症だけをとっても16.2%から26.5%と約10%も増えています。また年齢別でみると5～9歳の年齢層での有病率は10年前で約8%であったのが現在は約14%とほぼ倍に増え、若年化しています。

一度花粉症を発症すると花粉飛散時期の3～4ヶ月間、毎年発症し、自然治癒がなかなかみられませ

ん。近年は症状も単にくしゃみ、鼻水、鼻づまりだけではなく、咳を訴える患者さんが増え、イネ科の花粉症との合併が多く、スギ花粉の飛散時期が過ぎても症状が長引く人も増えています。

アレルギー性鼻炎の診断は問診、鼻内所見、鼻汁中好酸球検査、血清中抗原特異的IgE濃度測定、皮膚テスト、鼻粘膜誘発テストなどによります。

アレルギー性鼻炎の治療目標は、症状がない、あるいは多少症状があっても苦痛なく日常生活が送れ、薬もあまり必要でない状態にすることです。治療法には患者指導、抗原の除去と回避、薬物療法（第2世代抗ヒスタミン薬、遊離抑制薬、局所ステロイド薬など）、特異的免疫療法、手術療法などがあります。花粉症における薬物療法は、症状の出る時期よりも少し前から開始するとシーズン中の症状軽減につながるとされます。鼻の症状でお困りの方は耳鼻科を受診して相談して下さい。

第96回大学報編集委員会

日 時：平成24年4月19日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：影山 雄太、松政 正俊、齋野 朝幸、小山 薫、山尾 寿子、佐々木 光政、米澤 裕司、赤松 順子、佐々木 忠司、
武藤 千恵子、野里 三津子

編集後記

桜がほころんでいる矢巾キャンパスでは、新年度がスタートしています。医歯薬あわせて学生数1,500名以上の迫力に圧倒されつつも、日々をしっかりと積み重ねていこうと思います。

また、今回ご紹介したドクターヘリ基地ヘリポートは地元メディアでも連日のように報道され、関心の高さがうかがえます。広大な岩手県では、大きな力となってくれるに違いありません。
(編集委員 影山 雄太)

岩手医科大学報 第427号

発行年月日 平成24年4月30日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp